

---

# とある都市の万物作成

結崎彩香

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とある都市の万物作成

### 【Nコード】

N8564X

### 【作者名】

結崎彩香

### 【あらすじ】

自殺したら割とチート化してとある魔術の禁書目録、及びとある科学の超電磁砲の世界に転生することになりました。神様に何が何でも上条さんと接触しろと言われましたが、別に嫌いじゃないので苦ではありません。原作介入する気はあまり無いのですが、つまらない人生を歩んでまた死にたくなったら面倒くさいので、しょうがないから原作キャラクターと絡みましょうか。せいぜい私を退屈させないでくださいね。助ける気は無いですよ、私が居なくてもあなた方は助かる運命なんですから自力で何とかしなさいね。私は快適

な日常を楽しませてもらいますよ。まあつまり何が言いたいかとい  
うと転生マジ最高。オリーブのチート主人公が最強です。とりあ  
えずやりたい放題やらかす子です。原作改変しまくります。改悪だ  
と感じてしまった場合は申し訳ありません。

## とある死者の異界転生（前書き）

とある魔術の禁書目録・とある科学の超電磁砲で二次創作、オリ主が最強です、チートです。他版權のネタや武器や能力、技も出てきます。

オリ主は根暗で面倒くさがりで貪欲で割と人間のクズです。原作介入します。改悪にはならないよう心がけます。

日常生活においては、オリ主は普通にノリ良く喋って生活しています。面倒くさいことが始まると性格変わります。

原作ストーリーで進むのは途中までです。そこから先はご都合主義によるオリ展開とオリ設定のオンパレードです。

出てこない原作キャラがたくさんおります。ご注意ください。嫌な予感がした方はお戻りください。

作者のとあるに関する知識は主にアニメで構成されています。

「お前の解釈、それちげえよ」「みたいのがありましたら、ご連絡ください。

時間軸はオリジナルで書かせていただきます。

## とある死者の異界転生

「お前はすでに死んでいる！」

こんにちは、鈴木花子です。いいえ、××××です。

生きるのが面倒になったので学校の屋上から飛び降りたら、その瞬間前述の言葉を言われました。まあ死んでいるでしょうね。

あ、別に苛められていたとか、虐待を受けていたとかではありませ  
ん。

ちょっと中二病をこじらせまして、我慢できない位の厭世観を抱え  
込んでいたらうつかり自殺に踏み切ってしまいました。カランカラ  
ン。

痛いのは嫌いなんですけどね、あんな世界で生きていくのが一番痛  
いんじゃないかと思っ……うん、自分が一番痛いですね。

「おうぶ、分かってんじゃん。くくく、あんた面白いよなあ、もう  
ちっとお前の生き様が見たくなっただんで、俺様の神様の力を使って  
転生させるから」

おうぶ。なんたる不幸。自殺者を転生させるとか貴方何様ですか。  
神様ですかそうですか。

目の前でぶよぶよ浮いている神様（仮）は、人の悪そうな笑みを浮  
かべてこっちを見えています。推定年齢15歳の平凡な少年に見える  
けど、実質的には平凡ではなさそうです。

何も喋ってないのに反応されたことから心が読まれていると考えて  
いいでしょう。神様たる者、それくらいできなくてどうします？

「黒執事か！ 黒執事か！ あれ面白いよな、悪魔とか死神とかぶつちやけ全部俺様の分身なんだけど。で、転生の話だけ別次元に行ってもらうから」

異世界トリップキタコレ。

さて、勝手に転生されるようですしチート能力や行先の設定などができるのでしょうか。

「注文なら聞いてやるけど、行く世界の方は俺様の指定な。今ハマってるんだ、とある魔術の禁書目録ととある科学の超電磁砲。そこ行け」

おうぶ。死亡フラグがばら撒かれている世界でなかったのは僥倖ですが、あの世界は頭が良くないと快適な生活は送れなさそうですね。

おそらく科学都市に住むことになるでしょうし、また自殺したくなるような心境になるのは御免です。結構覚悟要るんですよアレ。ならば注文すべきは、頭脳に能力、外見に運動神経、前世とこの記憶保持といったところでしょう。まずはゆっくり詳細を考えましようか。

「おうおう、良いぜー。どうせならチートになっちまえ」

よし、言質は取ったのでもう遠慮なんかしません。死にたかったのにまた生かされるんですから良いですよ。

どんな天才の追従も許さないスピードと正確度の演算能力をまずは頂きましょうか。それと、それを隠すことができる狡賢さも欲しいですね。

外見は……そうですね、あまり奇抜な恰好は好みませんし、超スト

レートでロングの艶々な黒髪に藍色の目にします。

身長は165cmで体重は50kg以下の細身体型、胸は大きいと動き辛そうですしBサイズくらいがいやらしくなくて好感が持てますよね。

顔は、どうせなら美人に設定しておきましょう。お淑やかな本物のお嬢様を連想させる、けして派手ではないけどかなり綺麗な顔を所望します。

肌は白くて日焼けのしないのがいいですね。シミとかニキビもなしの完璧な肌。そうそう、食べても太らない体質にしておきます。後はそうですね、私は何と言っても脚フェチなので美脚が欲しいですね。すらっとした長くて細い、でも不健康ではない足が。

「随分と外見にこだわるねえ……、そんなに今の外見に不満あるの？　ぽつちやり系の童顔巨乳とかかなりのステータスだと俺様は太鼓判を押すのだけど」

黙れ変態。こつち見んな。

「酷いッ！　俺様あーたの注文漏れがないようにメモしてるってのに、なのにこの仕打ち！？　でもそこがいいよね！」

じゃあ続けますね。

運動神経ですが、平和島静雄に制御機能を搭載した感じで手を打ちましょう。

後あの都市で生きていくには喧嘩の一つや二つはこなせないですし、体術や棒術に優れている、という設定も追加をお願いします。

「池袋最強を選択か！　お前本当に傲慢だよな、笑えるぜ。見た目のイメージは白雪姫、身体能力は平和島静雄、喧嘩の仕方は学習済み、と」

とある関係の小説はあまり読んでないのですがアニメは全て見たので覚えてますし、立ち回りやすそうなので前世とここでの記憶は消さないでおいってくださいね。

「あいよ。そうそう、原作介入についてだけど、お前が行くのは二次創作的な感じで作つといた世界だから気にせず原作のキャラクター達に接触していいぞ」

それはどうも。

最後に能力の指定ですが、最初に聞いておきます。どんな注文でも聞いてくれますよね？

「それって質問じゃなくて確認だよな。まあさつきも言ったけど、チート能力でも全然おっけーよ。なんなら多重能力デュアルスキルでもいいけど、その場合研究所行きのバッドエンドが選択肢に入るかもしれないぜ」

ふむ、似たような能力にしようと思っていたのですが、やはりチートには代償があるようですね。

「とりあえず、言ってみ〜」

能力や物質を作る能力です。そうですね、仮に万物作成と名付けておきましょうか。

火を作ろうと思えば火を作り、刀を作ろうと思えば刀を作り、みたいな感じの能力です。

ついでに、とある以外のアニメやマンガ、小説に登場する武器や能力も作れる能力だと尚良しですね。

能力を作る、としたのは空間移動テレポートが使いたいからです。あれ、アニメを見ててすごく羨ましかったんですよ。

空間と空間を繋げる道、それも物質の一つだ、俺の作る物質に常識は通用しねえ、みたいな説明でゴリ押しすればどうにかなるかと思うのですがどうでしょう。

「分かる分かる、あのどこでもドア的な能力は人間にとっちゃ便利に映るよな。ふむ、お前がうまく立ち回るという可能性に賭けて許可してやる。ただし、とあるに関する能力については、Level 5達の能力は使えないようにしておく。その方が面倒が起きないし楽だと思っぜ？」

そうですね、私もLevel 5相手に喧嘩を売る気は無いですし、文句はありません。

「後、俺様がグロいの嫌いだから、命ある物と人型は作れないように設定する。つまり、無機物と能力しか作れないようにしておくから」

私も神になる気はありませんし、それで構わないですよ。

「お前の能力が一番近いのは、木山春生の多才能力マルチスキルだなあ。別次元のまで、となるとあいつよりもチートだが」

チートになっちゃえ、と言ったのは貴方ですよ、神様。後、やっぱり演算とか面倒なので想像したら作れる、という事にしてももらえませんか。

天才的な頭脳はいらないので、中の上くらいの頭の良さで設定してもらえると助かります。

「そうだなあ、それくらいの方が主人公の上条たんには近づきやすいかもな。あ、言い忘れてたけど、お前には上条たんと同じクラス

に通って、何が何でも接触して友達にでもなってもらおうから」

まあ、上条さんは暑苦しいですが嫌いじゃないので良いですよ。それと質問ですが、転生ということは赤ん坊からやり直しですか？面倒なのでさくつと高校生からだと助かります。

後、保護者とお金もお願いできますか。

「ああ、高校からスタートな。身元保証はバツチりだから安心しとけ。金はとりあえず大金をお前の口座に振り込んでおくから。後、お前の能力は表向きにはどう設定しておく？」

そうですね、エレクトロマスター電撃使いのLevel3でお願いします。絡まれた場合、身体能力とそれさえあれば大概の雑魚は倒せるでしょうし。

「おっけー、了解した。そんじゃ、そろそろ準備はいいか？」

ええ、色々和我俣を聞いていただけて感謝しています。

「よせよお、じゃあな〜」

俺様神様は照れたような笑みを浮かべ、私に手を振りました。

意識がだんだんと霞んでいって

\*\*\*

「結局、最後まで良い子ぶった仮面を外さなかったなあ、  
××」  
××

神は白く塗り潰された世界でそう嘲笑<sup>わら</sup>った。

## とある死者の異界転生（後書き）

読んで頂きありがとうございます。

ご感想ご意見お待ちしております。

誤字や被り等ありましたらご連絡ください。

## とある創作の架空設定（オリジナル設定）（前書き）

オリジナル設定を置いておく場所です。

このページよりも後にページがある場合ネタバレ有になりますので  
ご注意ください。

## とある創作の架空設定（オリジナル設定）

主人公が転生した世界\* 神様が二次創作のノリで作ったとある魔法の禁書目録、とある科学の超電磁砲の世界。

ちなみに世界が始まるのは主人公や上条さんが入学する高校の入学式の日から。

今作の主人公\* x x x x

性別\* 女

年齢\* 高校一年生（転生後）

身長\* 165cm

体重\* 50kg以下の細身体型がキープされる。食べても太らない体質に変化した。

外見\* 黒髪、藍色の瞳。超ストレートのロングでさらさらヘア。

本家お嬢様系の美人顔。

肌は白くて日焼けしない。神様曰く「イメージは白雪姫」。

頭脳\* 中の上

身体能力\* 制御機能が搭載され、喧嘩の仕方を学んだ平和島静雄と設定された

能力\* エレクトロマスター電撃使いのLevel13として登録してあるが、実際は万物作成という能力持ち。計測されていないがとあるの常識的にはLevel15並み。

万物作成\* 無機物なら何でも、とあるの世界の能力ならLevel15以外の能力、他の世界の武器や技、能力なら何でも作ることができるという能力。

主人公は想像することによってこの能力を発動させられる。といっても、考えたことが現実になるというやつではない。

神様曰く「木山春生の<sup>マルチスキル</sup>多才能力が一番近い」だそう。

性格\*初対面の人間に対しては猫被りだが、気を許した相手には割とノリ良く喋る。

原作キャラに関しては知り合い(?)みたいなものだから、結構最初から親しげ。

だが、面倒くさい事になったり面倒くさい人間に会ったりするとすぐキれる。

定番台詞\*?

## とある高校の万物作成 - 1 (前書き)

原作キャラたちが出てきます。

頑張ってなぞらえてますが、違和感とかあるかもしれません。

## とある高校の万物作成 - 1

「……知らない天井だ」

よし、テンプレは終了しました。

私は今、知らない部屋の知らないベッドの上に横たわっています。と言っても、私らしい部屋だと言えるので、そこまで違和感は覚えません。

着ている服も、質が前より良くなっているとは言え、生前と同じ真っ黒なパジャマです。

え？ 生前とは何ぞや、ですか？

説明しましょう！

実は私、前世の私が自殺した時に神様（仮）にとある魔術の禁書目録、とある科学の超電磁砲の平行世界に転生しろと言われ、色々注文を付けてついさつき中間駅のような所から追い出されたのです。頭を落착かせるため自分に今の状況を説明しつつ起き上がった体をみれば、白く美しい肢体、淑やかな長い黒髪が目に入ります。

部屋を見渡せば、十分一人で暮らしていけるだけの設備のあることが分かりました。

ワンルームマンションで、電子機器もすべて整備されています。カレンダーやテレビで日付などを把握するに、どうやら今日が入学式の日です。

起きるのが早かったため、ゆっくり準備しても大丈夫でしょう。

朝食には豆乳と野菜スープ、それに食パンを食べることにしました。折角食べても太らない体質にしたのに、あまり非常識な食事をする

勇気はなかったようです。あくまで、常識人ですから。嘘だけど。さっさと食べ終わって食器を片づけ、顔を洗い歯を磨いて、パジャマから制服に着替えるとしましよう。

私は今、壁にたてかけてある全身用の鏡の前で迷っています。はてさて、一体どうするべきでしょうか。この場合、どの選択が最も私に適しているのでしょうか。

「黒タイツか、黒ニーソか、白ハイソックスか……それが問題だ……」

ゆゆしき事態です！

……いい加減、一人劇場にも飽きたので黒色のニーソックスを穿き、その場でくるりと一回転。

オーソドックスな例のセーラー服に、白のリボン。横に二本白色の横線が入っている黒色のニーソックス。

回ったときの風によって、短めのスカートの裾が翻ります。やばいです、大変麗しい美少女です。

「いいねいいね最ツ高だねエ！」

そろそろふざけないで普通の思考回路に戻そうと思う。

死んだ時はハイテンションでなんか個性のありそうな捻じれキャラを演じていたけど、あのまま敬語系謎キャラを貫いてたら近いうちにもまた絶望した！ 死のう！ となっていたはず。

鞆に財布や筆箱を入れ、早速登校。ちなみに財布の中は今までにな

いくらい潤ってました。

どのクラスに入ったか、は例の神様の言葉を信じるなら上条さんと同じクラス、つまり1年7組だけの一応自分の目でもチェックしておこう。

学校へ到着すると新入生たちがちらほらと集まっている掲示板に行き、背伸びしながらクラスを確かめる。1年7組、上条さんと同じクラスだ。

さて、どうやって関わろう。

不幸体質の彼のことだから、遅刻ギリギリで駆け込んでくる可能性が一番高いし、近くで待ち伏せしておいて一緒に体育館にでも行けば友達になれるだろうか。

「……やっぱり面倒くさいしいや」

同じクラスなのだし、そこまで私が頑張る必要もないだろう。そう結論を出し、体育館へ向かった。

まあ、夏休み前までに仲良くなっておけばいいのだ。

レールガン超電磁砲とは確かその一か月ほど前に接触するはずだがしばらくは動きもないし、最悪上条さんの記憶喪失フラグを折れさえすれば問題は無い。

やっぱり、上条さんに関わるとすればそのフラグを折るのが一番楽しそうインテックスな気がする。禁書目録と戦うのは面倒くさいけど。

共闘することで人は親交を深めるとどこかの偉い人も言っていた気がする。戯言かもしれないけど。嘘だったかもしれない。

体育館で、隣に座った人は青髪ピアスだった。何というか、青髪ピアスだった。

校長の話の最中などに、ぼそぼそと「お嬢様系でニーソックスやと

……！？ 萌えか、萌えを狙つとるんか……！」とか呟いていた。  
少し怖かった。

式が終わった後、話しかけられて面倒くさかったけれど、クラスデルタの  
三バカオースの一人なのだからと教室へ向かいながら適当に相手をしてや  
る。

「いんやー、それにしてもお隣さんがこない美人さんやとはラッキ  
ーやったで〜。ボクら同じクラスなんやし、これからよろしゅうな  
ー」

「こちらこそどうぞよろしく。入学初日から君のような奇天烈な人  
に出会えて、これからの学校生活が不安です」

「上げて落とした！？ 毒舌系美少女ですかいな、うっはー、痺れ  
るウー！」

「このDMが。……ところで、私同性のお友達を作りたいのでどっ  
か行ってくれませ間違えた、君も同性のお友達を作ったらどうでし  
ょう」

「ごまかすの遅いで！？ 傷つく、会って一目でこの扱いとか傷  
つ」不幸だあああああつ！」

青髪ピアスには上条さんとの橋渡しをしてもらうという重要な役目  
があるため追い払おうとしたら、後ろから定番台詞が聞こえてきた。  
振り返ると、全力疾走したのか息切れし始めている上条さん。初日  
からツンツン頭はデフォルトだったらしい。

……さて、折角近くにいるのだからここで接触しておくのも悪くな  
い。そう私は考え、

「あの、どうされましたか。君も新入生ですか」

「はい、朝起きたら目覚まし時計を踏み潰してしまい布団を干そうとベランダに出たら烏の集団に攻撃を受け不幸だと呟きながら階段を駆け下りていたら足を踏み外して転がり落ち、幸い無傷で僥倖だと思っていたら鞆を部屋に忘れたことに気づいて戻らないといけないう羽目になりその後色々あつて結局入学式に出席できなかった新入生の上条さんですよ」

「……それは災難でしたね」

思っていたよりも不幸な人だった。割と自業自得な箇所もあつたけれど。

私の隣で上条さんの話を聞いていた青髪ピアスは、けらけらと笑いながら彼の肩に手を置いた。

「あははは、なんやおもしろい人やね。ボクら7組なんやけど、キミはどこのクラスなん？ よかつたらボクらと友達にならへんか？」

「あ、同じクラスだ。俺知り合いこの学校に居ないからさ、こつちからお願ひしたいくらいだよ。その君も、それでいいんでせうか？」

ふむ、どうやら青髪ピアスのおかげで友達になれたようだ。

「彼の言い方だとまるで私と彼が友達のように聞こえてかなり腹立たしいですが、君と友達になることに関しては異論がないので良いとしましょう」

「酷い！ さっきからボクの扱いひどくない！？」

しかし青髪ピアスはからかうと面白い反応をしてくれる。  
正直、初日から上条さんところも好感触なエンカウントができると思っ  
ていなかったから、青髪ピアスへの好感度は割と上がった。

そのままくだらないことを三人で話しながら教室へ向かう。自由に  
座れと黒板に書いてあったため、窓に近い席を確保。

私の前が上条さん、その横が青髪ピアスである。

適当に喋りながら先生が来るのを待っていると、私の横の席に座っ  
ていいかとやってきた人に言われたため、二つ返事で了承する。

だってほら、土御門さんだったから。これで、デルタフォースクラスの三バカがよ  
うやく揃った。

話に取り入れて自己紹介を済ませたところで、先生が入ってきた。

「はい、皆さんの担任になった月詠小萌というのです。悪いこ  
とした子にはお仕置きですよー？」

しーん、と空気が凍る。青髪ピアスやら土御門は静かに悶えている  
けれど、普通感覚を持った生徒たちは目を見開いて彼女、小萌先  
生を凝視している。

まあ、確かにあの外見で先生と名乗られてもといった感じではある  
けどね。

誰も発言しないからいい加減助けようかと動いたところで、吹寄さ  
んが動いた。一つ二つ質問して本当に教師であると確認でき、生徒  
たちが肩の力を抜く。

「それでは時間割や教科書の配布を始めるのです。その後委員を決  
めたら、今日は下校してもらって構わないのですよ」

やれやれ、面倒くさい事この上ないけど、初日から目立ったり先生

に目を付けられるのも嫌だから眠らないよう頑張りますか。

とある高校の万物作成 - 1 (後書き)

感想・意見お待ちしております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8564x/>

---

とある都市の万物作成

2011年10月26日09時06分発行